

# トホクのニンジン栽培方法

発芽適温：15～25℃ 生育適温：15～25℃  
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3～4年あける

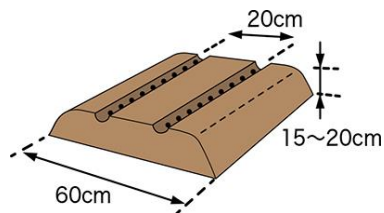
**1.作物特性** 夏にタネまきして秋から冬にかけて収穫する場合と、春にタネまきして初夏から夏にかけて収穫場合があります。春まきはとう立ちや病気が発生しやすいので、とう立ちしにくく、病気に強い春まき用の品種を選びます。ニンジン栽培で最も難しいのは、発芽を揃えて初期生育をスムーズに乗り越えることです。芽が出るまで畑を乾燥させないように、また強い雨でタネが流されないようにしっかり管理する事と、雑草の勢いに負けないように除草を徹底することです。

**2.畑の準備** タネをまく2週間前には堆肥などを施し、深めに耕して土とよく混ぜておきます。その後苦土石灰や化成肥料を施しうねを立てます。



## 3.タネまき

深さ1cm くらいのまき溝をつけ、タネを約1cmの間隔にタネをまきます。軽く土をかけた後、手のひらで軽く押さえます。



まき溝をつけるのには支柱などを使うと便利です。発芽するまで乾燥しないように水をやり、適度な水分を保ちます。

乾燥防止や夏場の地温を下げる目的でもみ殻をまくと一定の効果があります。またタネまき直後の雨の被害軽減にも効果があります。



なお、もみ殻が風で飛ぶことやスズメなどのいたずらを防ぐ目的で、もみ殻の上からべた掛け資材などをかけるとよいでしょう。

**4.栽培管理・収穫** 発芽が揃うまで比較的長い日数が必要で、適温でも約10日、低温下では3週間以上かかる場合があります。本葉3枚目の頃になったら、1回目の間引きを行います。1カ所に多く生えている部分を間引き、株間1～1.5cmにします。



1回目の間引きと同時に除草を行います。この時期は生育が非常に緩慢で、ニンジンが雑草に負けてしまうと、徒長したりや生育不良を起こすので注意します。

本葉5枚目の頃に、2回目の間引きを行い、株間7～10cmにします。この時期から急速に生育が進みますので、間引きが遅れないように注意します。2回目の間引きと同時に、1㎡当たり化成肥料30gを追肥します。同時に肩部に日が当たり緑色に着色するのを防止するため、株元に軽く土寄せをして露出するのを防ぎます。これ以降は特に作業はありませんが、収穫まで除草や害虫の防除を行います。ニンジンが肥大しはじめてから追肥を行うと根が割れてしまうので避けます。タネをまいてから100～120日位で収穫できます



春まき栽培では、必ず春まきできる品種を使い、初期の寒さを防ぐためにビニールトンネルを使用します。ビニールトンネルは生育時の気温に合わせて換気します。

